

～1987年～38年間、京都の医療や介護のなかまの声を行政に届け続けてきた～

2025いのちまもる キャラバン行動



【7/8 私立病院協会（以下＝私病協）と懇談】

私病協と懇談し、診療報酬改定や人材確保の課題を共有。私病協は「実質マイナス改定で大病院直撃」「病床削減 11 万に怒り」と発言。紹介業者の高額手数料や看護師不足、看護学校の閉鎖も深刻と指摘。医労連は「医療系大学の高学費と低賃金で再生産困難」とし、団体署名の協力を提案。新自由主義政策への懸念も共有され、連携継続を確認しました。

【7/8 保険医協会と懇談】

保険医協会と懇談し、診療報酬や病床削減への問題意識で一致。保険医協会は「医療の減反政策」として 410 万円支援金に医療機関が殺到する実態を指摘し、ベア評価料に「診療報酬の不備が露呈」と批判。加えて診療報酬の仕組みに懸念を示し、研究体制の必要性を強調。医労連は人材流出や M&A 進行を危惧し、秋に向けた運動強化を表明。使命感に依存する政策を見直し、人材の生活を支える改革を求めました。

【7/15 歯科保険医協会と懇談】

歯科保険医協会と懇談し、診療報酬改定の引き上げの必要性、経営困難の広がりを共有。歯科保険医協会は「材料費高騰と低報酬で 9 割が経営を圧迫」「ベア評価料取得は 2～3 割」と実態を報告。衛生士は病院で需要があり、不足感。歯科医師は減少（夜診等ライフワークに合わず開業は敬遠し勤務医に）、委託化している歯科技工士は低賃金、北部の深刻な状況を指摘。京都府への働きかけを確認しました。

【7/15 医師会との懇談】

医師会と懇談し、要請書趣旨や秋の財政審建議、予算編成の重要性等の内容は一致したが、共同行動には慎重姿勢。医師会は「ベア評価料の簡素化は厚労省努力」「ベア評価料廃止、基本報酬化は否定的」「病気の重症化が懸念される OTC 類似薬の保険外しには反対」「政策医療を担う国公立の病床を削減するのは限界」「看護師不足は理解」「医師会看護学校の閉校も京都府と意見交換してきたが…」と医師会の意見を主張。医労連は立場を超えた連携を呼びかけました。



【7/15 看護協会と懇談】

京都府看護協会と懇談し、離職防止と看護師不足への危機感を共有。賃金・報酬制度の見直しや人材確保策を巡り意見交換。医労連はキャラバンで 100 超の懇談と 50 超の要請書の集まった事を報告。看護協会も「報酬や制度設計の限界」「看護学校の疲弊」等の課題を共有し、国の危機感の欠如を指摘。医労連は次期診療報酬改定に向け連携強化を申し入れました。